

ひまわりからの メッセージ

171号
2026.3.9.
NPOひまわりの花内
西濃圏域
発達障がい支援センター
発行人：中野たみ子

次年度に向けて



三月に入るとはや一週間が過ぎ、中学校の卒業式も終わりました。今年も式に出席できなかった生徒さんもいらつしゃったでしょうが、きっと先生方は、子ども達の未来に向けて、励ましの言葉をかけて下さったことでしょう。生きていることの意味やあなたは決して一人ではないというメッセージを伝えて下さったに違いありません。

三月は別れの季節だなあとぼんやりと考えていましたら一昨日、二通の封書が届きました。一通は遠い昔にかかわった子のお母さんから、「ひまわりからのメッセージ」を読んでも便りを下さったのです。このメッセージは西濃圏域の園や小・中学校等にお届けしていますが、Gインターネットさんのご厚意で西美濃ポータルサイトからネット配信され

ているので、それを読んで下さったののお便りでした。お子さんの近況が書かれていて嬉しいお便りでした。

もう一通は山梨県勝沼市にあるぶどうの里からのお便りです。中には、パグサンハン児童救護協会のパンフレットが入っていました。責任者は田ヶ谷雅夫先生でした。田ヶ谷先生に始めてお会いしたのは、私が大学卒業後に就職した国立秩父学園という入所施設でした。当時国立の施設は一ヶ所しかなく、私は厚生教官という肩書でした。アメリカの施設を模して作られたので広大な敷地の中には、武蔵野の面影を残す雑木林が広がっていましたが、その施設で田ヶ谷先生は、知的な発達遅れのある七目の子ども達の療育にあたっておられました。おそらく今は、もう九十歳を越えていらつしゃるのではないかと思うのですが、フィリピンの子ども達の支援のために活動されているというのですから驚きです。

田ヶ谷先生から見たら、私なんて昔からひよこ子に違いなのです。いつまでも変わらずぬ先生の行動力と、そのエネルギーを思うと、私にもまだやれることがあるに違いないと思えてくるのです。

満開の梅はそろそろ散りはじめましたが、となりで白木蓮のつぼみが天に向かって伸びています。春です。はや三分の二ほど埋った来年度の予定は、前向きに行こうと呼びかけてくれます。

学習の基礎は

乳幼児期に……



年度末になり、どの地域でも子ども達に関する評価やまとめの時期ですね。そして園から小学校、小学校から中学校へと引きつぎの会も行われていることでしょう。

園から小学校への引きつぎの会でよく聞くことばとして「姿勢保持が難しい」「サ落ちつきがない」「手先が不器用」といったことばがあります。多動症の子は、姿勢保持の難しさや集中力のなさ、サ落ちつきがない、一方的にしゃべる等々、特性として考えられますし、不注意症の子の多くは、話をよく聞いていない、忘れものが多い、失くし物が多く探し出すのが苦手、片づけが下手などと言われたりします。

では、「手の不器用さ」として、どういうことでしょうか。今回は子どもの発達と手指の発達について考えてみましょう。

人間の赤ちゃんは、他の動物とちがって未熟な状態で生まれてきます。他の動物は、その誕生の時から種としての鳴き声を出し、すぐに歩き始めることができますが、赤ちゃんは一年経たないと二足歩行できませんし、意味のある言葉（有意味語）

を話すこともできません。面白いですね。

しかも、赤ちゃんが二足歩行して有意味語を話すようになるまでの一年間、つまり人間として種としての力をもつまでの一年間は、脳の中でのネットワーク作りはとて盛んで、脳の可塑性が高い時期だと言われています。

この乳幼児期には、抱っこしてもらったり肌と肌の接触がとても大切で、このことが「愛着形成」に重要な役割を果たしますし、ことはげかし、一緒にかかわって遊んであげることが、後の言葉の獲得や社会性の発達につながっていくのです。

次のページに、乳幼児期の発達の概略を示しておきました。子どもの発達には決まりがあります。

① 頭尾発達 …… 生まれたばかりの赤ちゃんは首がすわっていません。「原始反射」と呼ばれるものに影響を受けていますが、脳の発達に伴って反射が統合され首がすわってきます。そして寝返り、這い這い、つかまり立ち、独歩というように、頭の方から足の方へと進んでいきます。

② 中心から末端(末梢)へ …… つまり、体の中心(体幹)がしっかりしないと、手の動き、指の動きというように、発達していきません。自分の体を支えるために添え手を使っている子もよく見かけます。学習は小学生から始まるのではなく、すでに赤ちゃん時代から始まっているのです。

＜0歳児の発達の概略＞

月数	原始反射	目と手の協応	ことば・口腔機能	体の発達
0	吸啜反射 探索反射 嚥下反射 対称性緊張性頸反射 非対称性 “ “	拳はにぎったまま	泣く、大きな音に反応する	自分で顔の向きをかえる。 足をつっぱる 足裏を強くすると指を開く
2		握った物を取ろうとしても握ったまま離せない。	ほほえみ返し 人の声の方に目を向ける	伏臥位でまだ首は上がらない 伏臥位で肘で支えて顔を上げる 首がすわる。
4	原始反射の統合 ↓ より高次の反応へ	物をつかもうと手を伸ばす 自分の手をなめる 物をつかむ	喃語のはじまり 快・不快の分化	 寝返り
6	そしゃく反応 立ち直り反応 パラシュート反応 座位の平衡反応	小さな物に目を向ける	人見知り 要求があると声を出す 離乳初期 舌の前後運動	谷あい物、興味のある物に手だけで這っていく。
8		親指と他の4指で物を持つ ビスケットなど手で持って食べる	マママ... タタタ... と声を出す 指さし ジュスターの理解 離乳中期 舌の上下運動	一人座り
10	四つ這いの平衡反応	右←→左持ちかえる 「ありがとう」と言うしてくれる	指さし 共同注意 離乳後期 舌の左右運動	四つ這い つかまり立ち つたい歩き
12	立位の平衡反応	親指と人さし指でつまむ	始語	独歩

＜0歳児の気づき＞

- ・泣きますか？
- ・表情の変化、ありますか？
- ・寝返りは定頸の2ヶ月後ですが…？
- ・反り返る寝返りではないですか？
- ・6～7ヶ月で人見知りしますか？
- ・いつまでたっても人見知りが続いてませんか？
- ・手さし、指さしますか？
- ・共感のまなざしはありますか？（10ヶ月）
- ・物を目で追いますか？
- ・ハイハイの方向転換に足指を使いますか？
- ・抱っこされてしがみつきますか？
- ・離乳食はうまくいっていますか？

前ページで一歳までの発達の概略を書いてみました。生まれた時には原始反射の影響を受けて手は握ったままだった赤ちゃんが、次第に掌を開閉できるようになり、物をつかめるようになっていきました。そして一歳になる頃には親指と人さし指でつまめるようになっていくのですが、保育園の四歳児の中には、まだつまめない子がいて、折紙の端と端を指先で合わせて折れなかったりします。赤ちゃん時代にふれあい遊びを余りしてもらわなかったり、興味をもつような音の出るものを見せてもらわなかったりして、物をつかみに行くことが少なかったのかもしれないし、抱っこひもの影響でしがみつくことが少なかったのかもしれない。赤ちゃん時代の関わりについて、私たちはもっと学ぶべきだと思います。

さて、子どもの手の発達でいうと、一歳半頃にはクレヨンやペンを握る時には、回内握りといって掌を中に向けた握り方をします。絵本のページも一枚ずつめくることは出来ず、二、三枚一緒にめくってしまいます。けれど定位的調整と言った器の中に物を入れることができるようになります。一つだけでなく一杯入れるようになるのです。このことは目で見て、その位置に入れるわけですから、目と手の協応ができてきたということになります。

4月の予定

4/7 ヒアサポート

4/13 親の会
スイトピア 6F-2

<会議>

大垣・安ハ

<成人相談>

揖斐川 名 養老 4/14

<研修会>

・支援員研修会

・池田保育士研修

・ひまわり学園園内研

・通級担当研修

・神戸保育士研修

<講演会>

4/30 井川典克先生の

講演会

手の動きは、この様に目で見て手で操作していくわけですから、しっかりと物をとらえる目の力が必要です。二歳になれば絵本のページは一枚ずつめくれるようになって来ますし、積木も七個くらいは調整して積めるようになってくると言われています。そして三歳になれば閉じた円を描くことも、はめ板を回転させてはめ込むことも出来るようになってきます。リズム遊びでは、まだ両手同時動作のほうが四歳にもなれば左右の手は分離動作が可能になって紙を持ちながら鉄を操作したり、片手で食器を持ちながら、もう一方の手で食べ物口運ぶことができるようになるようになってくるといいます。この様に幼児期の手指の発達は主に様々な遊びを通して身につけていき、小学校の書く学習へとつながって行くわけです。「支援」の名のもとに何でもやってみては、力はついて来ませんよね！